

## 06\_佐渡市 | こどもデータ連携実証

\*総括管理主体：各担当部局からのデータを組み合わせて判定ロジック等を用いて人によるアセスメントの補助となる判定を行う部局  
 \*保有・管理主体：教育・保育・福祉・医療等のそれぞれの分野に関するデータを保有する担当部局  
 \*分析主体：データを分析して総括管理主体が困難な状況にあることを把握するための判定アルゴリズム等を作成する者  
 \*活用主体：データの提供を受け人によるアセスメントやアッシュ型（アウトリーチ型）の支援につなげる者

▼自治体の概要

自治体名	佐渡市（新潟県）	参加関係者の体制、役割			
担当部局名	佐渡市社会福祉部子ども若者課 佐渡市総務部総務課	総括管理主体	保有・管理主体	分析主体	活用主体
人口	51492人（2020.8時点）	（庁内） ・社会福祉部 子ども若者課	（庁内） ・社会福祉部 子ども若者課/社会福祉課/高齢福祉課 ・市民生活部 市民課/健康医療対策課 （庁外） ・佐渡市教育委員会 ・新潟県中央児童相談所佐渡駐在所 ・佐渡市社会福祉協議会	（庁内） ・社会福祉部 子ども若者課（子ども相談センター）	（庁内） ・社会福祉部 子ども若者課/社会福祉課 ・市民生活部 健康医療対策課（庁外） ・佐渡市教育委員会-新潟県中央児童相談所佐渡駐在所 ・佐渡市要保護児童対策協議会 ・潟上未来会議
位置					

▼本事業の実施概要

こどもデータ連携実証事業に臨むこととした背景、目的	<p><b>背景</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「配慮を必要とする子ども・家庭への支援体制づくり」を基本目標の1つに定め、相談や通報のあった子どもを支援する体制を整備している。</li> <li>一方で、支援を必要とする子ども・家庭の発見の遅れによる事案の深刻化が課題となっている。</li> </ul> <p><b>目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>虐待・貧困の発生を予防し、重症化や再発を防ぐために、出生前（-1歳）からの親支援、子どもへの支援を切れ目なく行うこと。</li> </ul>
対象とする困難の類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待・貧困（虐待・貧困以外の不登校・ヤングケアラー・産後うつなどの困難の類型については連携データの状態を確認した上で判断する。）</li> </ul>
本年度の取組概要	<p><b>本年度末時点で到達していた姿（予定）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連する各データを連携し、蓄積する「こども統合DB」の構築と活用ができている状態。</li> <li>佐渡市リスク判定モデルを構築できている状態。</li> <li>「こども統合DB」上でモデルにて「支援の優先度」と「支援内容」を判断し、関係機関と連携した適切なアウトリーチ型支援ができている状態。</li> </ul> <p><b>上記に向けて本年度中に実施すること</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 家庭・生活・医療・福祉等のデータを連携した「こども統合DB」の活用により、リスクレベルに応じた支援判断。</li> <li>② 「縦の連鎖（世代を跨る事案）」「横の連鎖（現況世帯は異なるがジェノグラムを辿ると繋がりがあがるケース）」に着目した特徴についての整理。</li> <li>③ 佐渡市の特徴を踏まえ、地域との結びつきを重視した取り組みの立ち上げによる適切なアウトリーチ型支援。</li> </ol>

# 06\_佐渡市 | こどもデータ連携実証

## ▼こどもデータ連携による、支援業務プロセスの概要

行政・教育委員会・医療機関などのデータを連携し「こども統合データベース」を構築。佐渡市リスク判定モデルによってリスク判定されたこども・家庭は行政内外のメンバーで構成される会議体によって支援の必要性及び支援策を検討する。プッシュ型支援は、「縦の連鎖」「横の連鎖」に着目しながら、こども・家庭の状況に鑑みて実施する。

### システムによる判定

### 人による絞り込み（アセスメント）

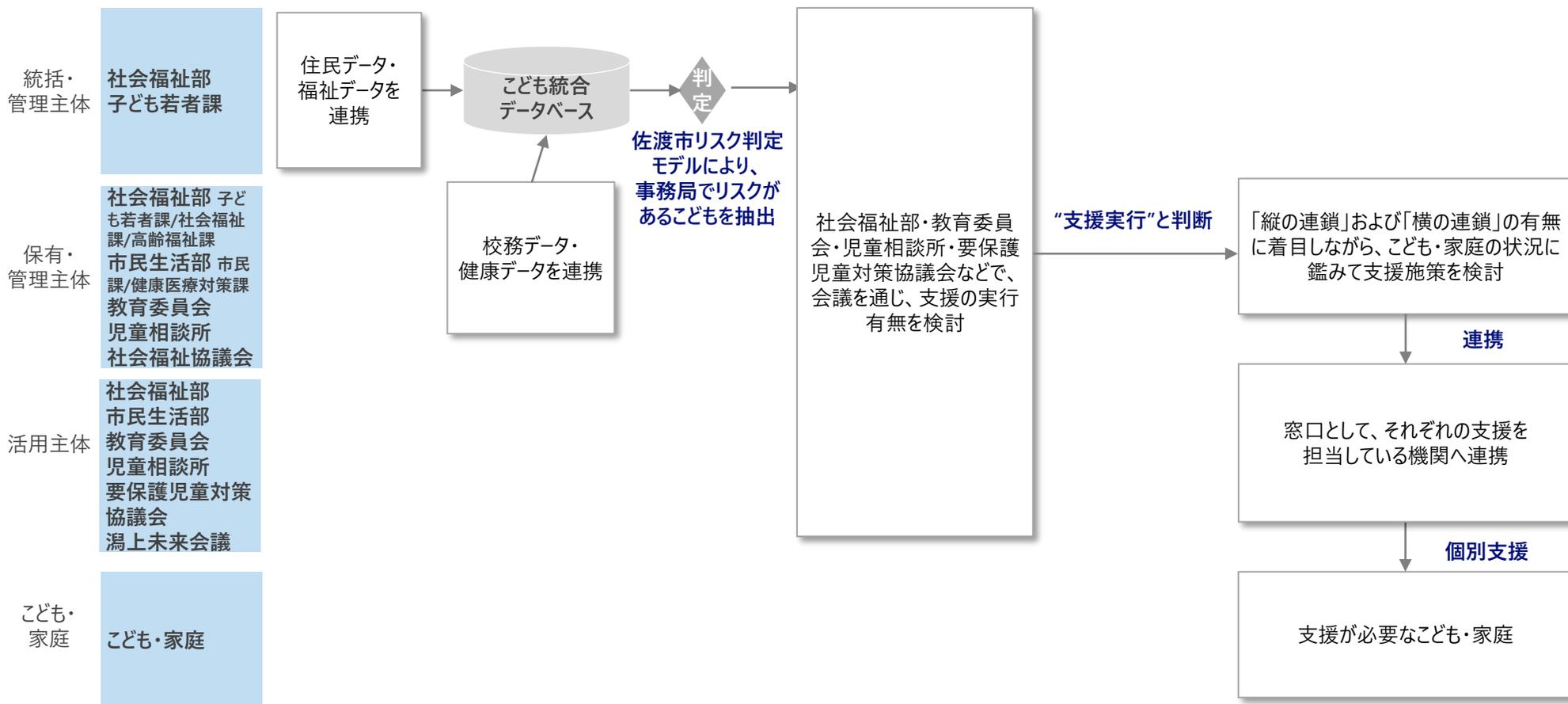
### 支援の実行（プッシュ型支援）

#### 本こどもデータ連携の取組の特徴

有識者知見や、困難事例とデータ項目の因果関係分析などにより、佐渡市リスク判定モデルを構築。

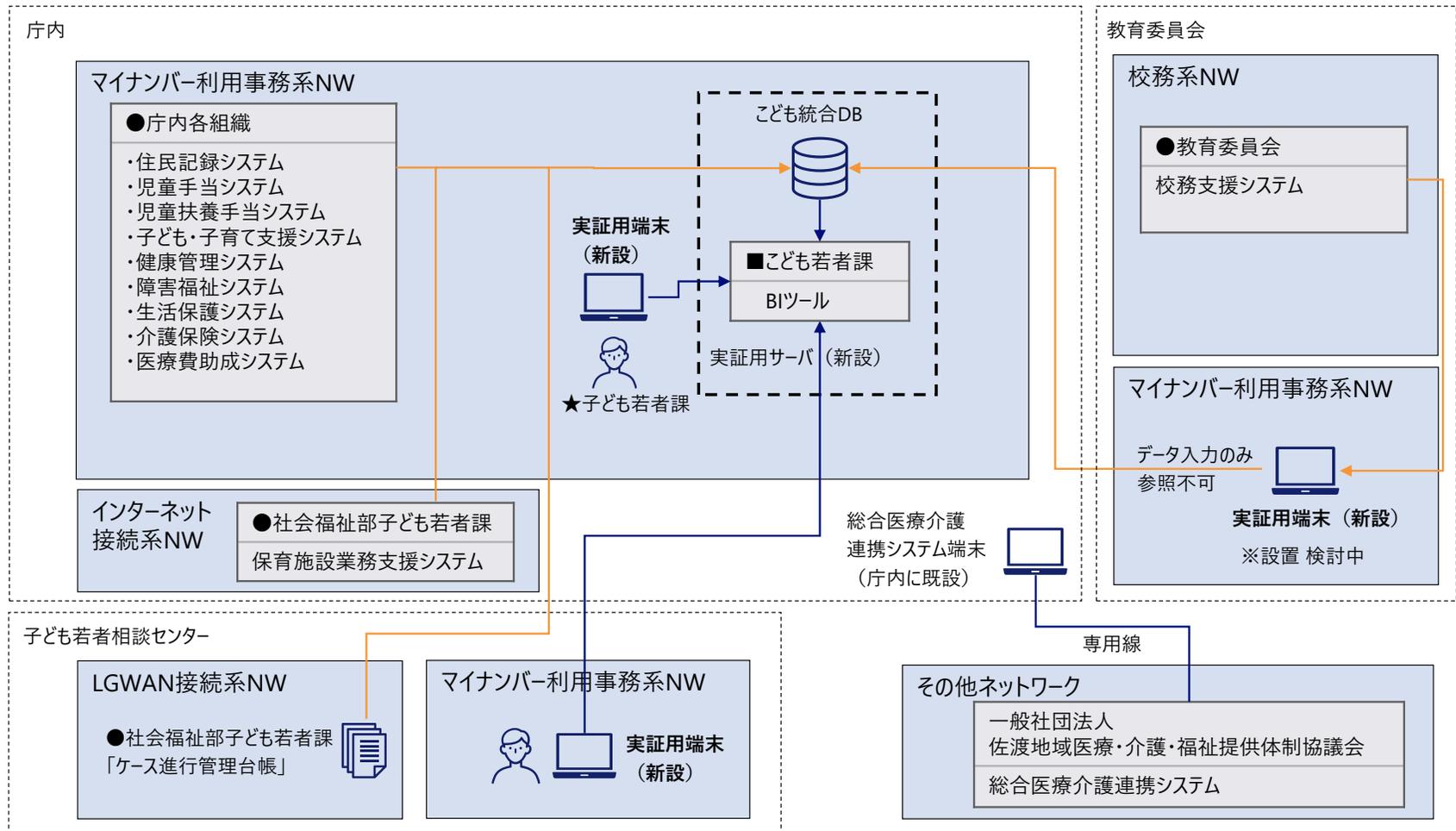
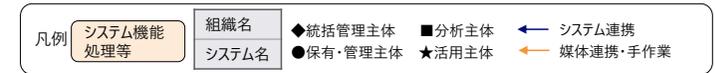
地方公共団体内の機関のみならず、児童相談所などの団体外組織、有識者を含めて会議体を設置し、支援の必要性及び適切な支援方策を検討。

「縦の連鎖」「横の連鎖」の有無に着目し、「縦の連鎖」に対しては出生前からのアプローチ、「横の連鎖」に対してはこどもの居場所確保に重点を置き支援を行う。



## ▼データ連携方式

- マイナンバー利用事務系ネットワーク内にシステム（こども統合DB）を構築。CSV等の出力による手動連携であり、マスキングは実施しない。
- 教育委員会からマイナンバー利用事務系ネットワークを通じてデータ入力が可能な構成を検討
- BIツールを活用し、利用者の属性によってBIツール上でアクセス制限を設ける想定



## ▼本年度事業の進捗、課題等

	実施方針（本年度中に実施すること）	本年度、実施してきたこと	直面した課題、及び本年度実証における対応策（案）
<b>利用するデータ項目の選定、及びデータの準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの必要性や優先度については、過年度のこどもに関する各種データの連携による支援実証事業の成果をベースに選定。「縦の連鎖」を把握できるロングスパンデータや、「横の連鎖」を把握できる家族構成の情報も収集・対象とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の業務フローに関するヒアリングを実施。</li> <li>データ項目の整理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の実証団体が報告した内容を踏まえてデータ項目は検討しているが、佐渡市に置いても有用なデータ項目であることを担保するため、現場の実態を踏まえて最終決定する。</li> <li>税情報が活用できない事が判明。税情報については、連携するデータ項目から除外した。</li> </ul>
<b>判定基準*の構築・精査</b> <small>*支援が必要と考えられるこども等をデータにより抽出するための判定ロジック</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ項目と困難事案との因果関係分析などにより、リスクがあるこどもを見つける「佐渡市リスク判定モデル」を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク判定モデルのロジック検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジックの方向性について試行錯誤している。現状は、リスクに該当するこどものデータを参考に、データ項目ごとにリスクの係数を加算していく方式を検討中。</li> </ul>
<b>個人情報の適正な取扱いに係る整理</b> <small>（法的整理、手続き等）</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども統合DBは個人情報を取り扱うシステムとなるため、庁内のサーバ設置を前提とし、マイナンバー系NW内での管理とする。利用者はマイナンバー系NWを介してアクセスを行う。また、アクセス可能な端末は実証で用いる端末のみとなるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報取得の法的根拠の整理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような法的根拠でデータを取得するのが課題。現状は、本実証は地方における事務に該当するとして内部整理を行う予定であるが、データ項目と併せて個別の罰則・規制が無いか確認を行う予定。</li> </ul>
<b>システム*の企画・構築</b> <small>*自治体によるが、データ連携、システム判定、判定結果の表示・伝達などを行うシステム</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内の各システムからのデータ収集は、既存の業務システムで保持しているデータ及び既存のデータ連携の仕組みを使用することで、職員および関係機関の負担等を最小限とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムの構成を検討。</li> <li>必要なサーバー機器・一部ソフトウェア等について、手配。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（本格的な着手は開始していないため、現段階においてはシステム企画に関して課題は発生していない。）</li> </ul>
<b>システムによる判定の実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団スクリーニングをし、こどもや家庭の情報を一斉に抽出する一括検討と、特定のこどもや家庭について個別の判定をかける個別検討の2種類のシステム判定を行う。</li> </ul>	<p>（未実施）</p>	<p>（未実施）</p>
<b>判定されたこども等を対象とした、人による絞り込み（アセスメント）、実際の支援の実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方公共団体内外の関係組織にて会議等を通じて支援策の検討を行い、支援を行う。「縦の連鎖」に該当する子に対しては出生前からのアプローチ、「横の連鎖」に該当する子に対しては居場所確保へのアプローチに重点を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区単位でワークショップ（FGI）を開催し、市内各地域で子どもの育ちに関わる多様なメンバー参加の下、現状の支援の把握・将来の支援に関する意見出しを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>－</li> </ul>

...

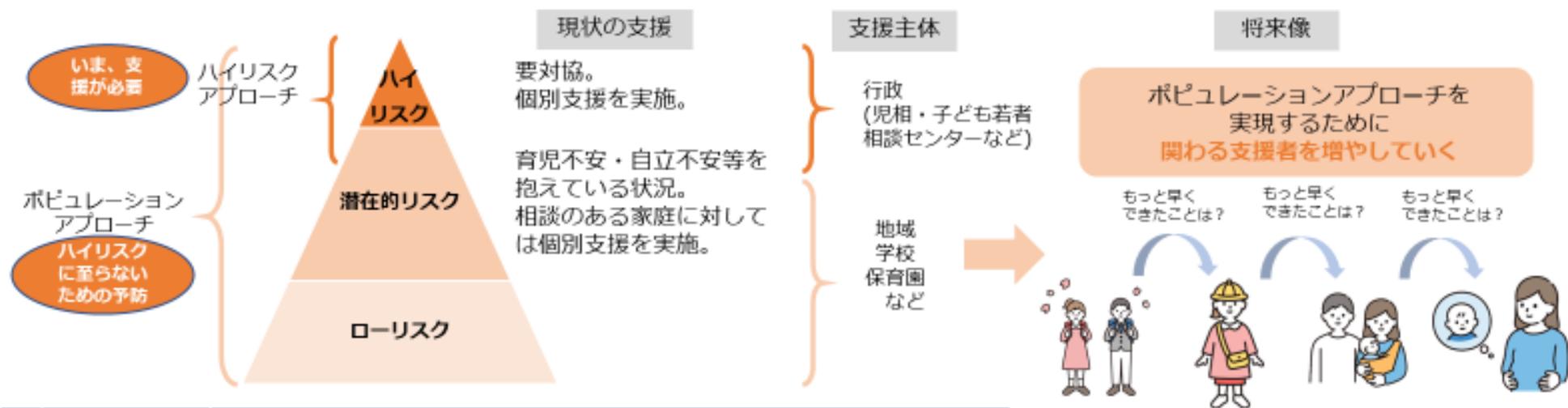
以降、取組効果の分析に続く

▼ハイリスクへの早期アプローチと予防的アプローチの実現に向けた地域連携の仕組みをつくるために

## 配慮を必要とする子どもや家庭への支援 佐渡市が目指す姿・ビジョン



ハイリスクアプローチの高度化と、地域やコミュニティのメンバーを巻きこんだポピュレーションアプローチの挑戦



対象	アプローチ方法
1 ハイリスク層	ハイリスクアプローチ。育児困難等から虐待へ発展する可能性の高い要因を持つ家庭、すでに事案が確認された家庭に対する個別支援。
2 潜在的リスク層	育児不安や・自立不安等を抱えている等、ハイリスク因子を持つ家庭の早期発見を目指す。発見された家庭に対しては個別支援を実施。 <b>今回の実証事業での取り組み。</b>
3 ローリスク層含めたすべての層	ポピュレーションアプローチ。リスク因子の発生を未然に防ぐ活動。個別支援でなく環境への介入も含むため、関わる支援者が増える。

どのような予防ができたのか、  
多様な支援者と通り議論することで未然に防ぐ活動。  
根本である「親子の愛着」を育むことに繋げる活動。

### ▼ハイリスクへの早期アプローチと予防的アプローチの実現に向けた地域連携の仕組みをつくるために

■適切なアプローチへ繋げる取組として、子どもの育ちに関わる多様なメンバー参加の下、現状の支援や将来像を考え、連携体制を構築していくためのワークショップを実施。



- データ活用により標準的・鳥の目的にリスクが可視化されたとして、実際の支援は人と人との関わりの中で進めていくもの。支援方法を標準化できるものではない。
- 地域の特徴を捉え、地域単位で支援者間の顔が見える関係を構築し、地域ぐるみで子どもや家庭を見守る仕組みづくりが必要。

地域単位での子ども・子育て会議  
実施などへ発展させていきたい

#### ■ ワークショップ実施概要

有識者の先生によるファシリテートの下、市内を7地域に分けてワークショップ（フォーカスグループインタビュー）を実施。

配慮が必要な過程や子どもへの支援の状況や情報集約の流れを整理を行うことを目的とし、参加者の多様な立場から意見出しを実施。

#### ■ 参加者

市内各地域で子どもの育ちに関わる 約70名

#### ■ 参加者属性

小・中・高等学校・特別支援学校（校長、教頭、養護教諭等）、保育園、児相、医師、保健師、栄養士、臨床心理士、社会福祉士、保育士、民間の支援機関等

佐渡市へ合併前の市町村単位をベースにした地域コミュニティが根強く残っており、**こども・家庭支援においても地域の繋がりが非常に重要**です。

